和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第５号
2019年5月10日

2018 年度活動記録
SGH 甲子園（3）

「SGH 甲子園 2019」の開催日、関西学院大学ではあらゆる学部でオープンキャンパスが開催されていました。当日、本校からは発表者以外に 28 名の生徒が参加し、課題研究発表会とオープンキャンパスそれぞれに主体的に参加することで、貴重な学びを得ることができました。

参加を通して学んだこと

自分の目的を持って学ぶ

自分の目的を持って学ぶことで、将来自分がありたい姿に近づけるのではないかと思います。

近年、「大卒」の人々が増え続けています。大卒でも、受け身で、自分の学生生活や勉強をただ淡々とこなすのではなく、自分の目的を持つことによって、実りのある生活を送れると思います。しかし、これは大学だけの話ではなく、高校生活においても同じだと思いました。目的、目標を持って学んで行きたいです。

一日を通して、大学に行きたいという気持ちが強くなっただけでなく、しっかり行動に移していかなければいけないと思いました。今日、講義を受けた学部では周りにたくさんの高校生がいました。みんながライバルになるので、勝てるようにしっかり勉強します。

（３年５組　今枝萌）

グローバルな着眼点

日本語で、地域課題について発表していた学校で、「グローバルなこととどう関係があるのか」という質問を受けていた場面が印象的だった。地域の課題や問題から、どう世界と結びつけて解決していくかを考えていく能力が必要なのだと思った。

地域の問題を世界に広めたり、世界で同じような課題があるところと共有して一緒に解決したり、解決できたところを参考にしたりすることで、自分に身近な地域だけでなく、世界に目を向けることで得られるものもあると思った。そのためにも、英語力を上げる必要を感じた。

（３年５組　東山公美）

もっと英語を聞き取る力と伝える力の必要性

英語で発表している学校が多数あったため、英語のリスニング力が必要だと感じた。全く聞き取れずに、発表者が何を伝えたいのかが分からない時があった。もっと全てを聞き取り、発表者に質問したり、自分の意見を言ったりできたらいいなと思った。発音や正しく伝えることも重要で、自分も、相手に伝わるような話し方をしていきたいと思った。

グローバル化が進んできている現在、多くの外国人観光客や在住している人が年々増えてきている。道で話しかけられたり、将来自分が就く仕事に関係があったりした時に、英語に関するこうした力が必要になってくると思った。

（２年３組　北岡菫）

発表では「相手に伝える」という気持ちが最も大切

今回、いろいろな学校の発表を聞きましたが、どの学校の生徒も「相手に伝えたい」という気持ちで発表していることが、とても伝わってきました。やはりそういう心持ちが、よい発表へとつながっていくのだと思いました。今までいろいろな発表を聞いてきたけれど、ただ読んでいるだけの発表では何も伝わってこないということや、発表の良し悪しは、発表する人の「相手に伝えたい」という気持ちの大きさ次第で変わってくるのだと改めて感じました。

（３年４組　芝﨑理紗）